

地域水環境保全シンポジウム

2010

「湧水が地域を結び、歴史を築き、未来をつくる、我がふるさと」

7月18日瀬利覚字を舞台に地

域水環境保全シンポジウムが、全国モーターボート競走施行者協議会の支援を受けて行われました。

平成20年6月 平成の名水百

選に認定された「ツッキ」ヌホー(瀬利覚湧水)を中心とした環境保全活動に取り組む瀬利覚字の呼びかけで、鹿児島本土から志布志市 普現堂湧水、湧水町 丸池湧水、沖繩から北中城荻道大城湧水群の関係者や瀬利覚字が地域間交流を続けるうるま市も含め50人が来



島しました。シンポジウムでは、鹿児島県環境技術協会普及推進部長の岩田治郎氏が「名水百選と水質保全活動」と題し基調講演をしました。

ツッキヌホーは長年にわたる地域住民一丸となった保全活動の仕組みができており、地域ぐるみの保全活動は高く評価する。今後は、他地域の取り組みも参考に、さらなる活動の充実を図ることが大事である。

また、下水道整備率と水質汚染の問題に言及し、水質汚染の主な原因は生活排水であり、住民一人ひとりが水の大事さを認識し、きれいな水を排出することが重要とのことでした。

続いて、各地区の事例発表が行われ、地元の吉田区長は、昔から続く壮年団、婦人会、小組合等による川掃除、周辺地域の清掃活動、子供会への水辺環境観察会の模様を写したスライドを交えながら、命の水である「ホー」に感謝の気持ちを忘れず、今後も環境保全活動に取り組むとのことでした。

志布志市からは山口善央環

境政策室係長が地下水の減少と汚染を防止するために地下水保全条例の制定を検討していることや28品目にも及ぶ「み分別」の取組状況について発表がありました。

また、北中城荻道大城湧水群を代表して外間裕氏、大城花咲

爺会が湧水群を活用した地域活性化事例を紹介しました。

ハネルデイスカッションでは、山口氏、外間氏、与儀氏、地元

の西田治利氏、前区長らがパネリストとなり、朝戸武勝氏副

町長がコーディネーターを務め、事例紹介された各地区の

環境保全活動の取組状況など環境全般について話し合いました。

岩田氏は、地域おこしは地域で保全活動に取り組んでいる人

たちから盛り上がり、地域が一体となつて、地域が一体となつて、

かわりが大事であり、違う地域、違う環境で保全活動を行っている

団体の取り組みも参考に、活動ベースを広げる事が大事」と

の助言がありました。

同日の夜は、特設会場でツッキヌホーまつりとシンポジウムの報告会が行われ、参加

者全員で交流を深めていました。

沖永良部地区

子育て支援講演会



沖永良部地区子育て支援講演会、知名町主催が福岡県出身の助産師、内田美智子さんを講師に招き、7月21日あしびの郷ちなで行われました。

内田さんは助産師になって30年、二五〇〇人程の赤ちゃんを取り上げた経験をもとに、食卓からはじまるせい」と題し、子育ての責任や生きていくうえでの「食」の大切さについて講演しました。内田さんは、思春期の保健相談士として20年以上にわたり、思春期の子ども達とかわり、「性」と「生」と「食」の繋がりに気づいたとのこと。

病院で命と向き合う仕事を続けて感じたことは、新しい命の誕生は希望の光であり、未来への道標である。人はそこに居るだけで価値がある。そして、子ども達はきらきら輝いてピコアな心を持っている。親の行動は、子ども達に大きな影響を及ぼし、一人ひとりが変わることで自分を必要とする人たちを変えることができる。育てる大人の責任は大きい、子ども達が生きてて良かった」と思えるような子育てをして」とメッセージを

送りました。現代社会の便利さの象徴とも言える「コンビニ」を取り上げ、いつでも弁当が買え、総菜や冷凍食品が揃っているなかで、子ども達に冷凍食品を食べさせてもいいが、容器のままではなく皿に移してあげる。そして、暖めてあげる。味噌汁を作ってあげる。そんなひと手間が大切であり、その気持ちは子どもに伝わる。心の空腹感を埋めることが大事である」とアドバイスしました。また、子ども達が一人で弁当作りに挑戦する「弁当の日」を設けた学校の実例を挙げ、料理をすることで、母親や給食を作る人たちの大変さを知り、作る人たちを尊敬する気持ちが生まれ、そして感謝の気持ちから食べ残しが少なくなった「事例などの紹介もありました。

最後に、食べた記憶は育ちの記憶に繋がりが、子ども達は食卓でご飯と愛を食べて身体も心も育っていく。あなたは、子どもにどんな言葉をかけ、何を瞳に映して子どもを育てていますか。大人として子ども達に何を遺すかが大切であり、子育ての責任を考え、子ども達に生きる力になるような記憶を残してください。」とメッセージを送りました。